

景況レポート 4月

4月の県内景況は、前月に比べやや好転となった。イベント開催効果や天候に恵まれたこと等が影響し一部業種では業況が上向きとなった。

情報連絡員による平成29年4月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は9.1%（前月比+3.8）となっており、「横這い」は45.5%（同-1.9）、「低調」とするところが45.4%（同-1.9）、業界全体の「景況感DI」は36.4%（同+1.9）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「在庫数量」、「収益状況」、「資金繰り」、「雇用人員」の4項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、「快晴」または「晴れ」の業界はなく、食料品製造業、繊維製品製造業、木材木製品製造業、卸売業、商店街、建設業が「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、10.9%（前月比-6.6）と減少しております（好転の回答0件、やや好転の回答6件）（製造業2、非製造業4）。一方で、変わらないが、60.0%（前月比+7.4）と増加しております。やや悪化、悪化の見込みは、29.1%（前月比-0.8）と減少しております。

平成29年4月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率91.7%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	☁	☁	☁	☁	☀	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
繊維製品製造	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
木材木製品製造	☀	☀	☁	☁	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☁	☁
鉄工機械製造	☀	☁	☁	☁	☀	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
その他の製造	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
卸売業	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
小売業	☁	☁	☀	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
商店街	☁	☁	☀	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
サービス業	☀	☀	☁	☁	☀	☁	☀	☁	☀	☁	☁	☁
建設業	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
運輸業	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁

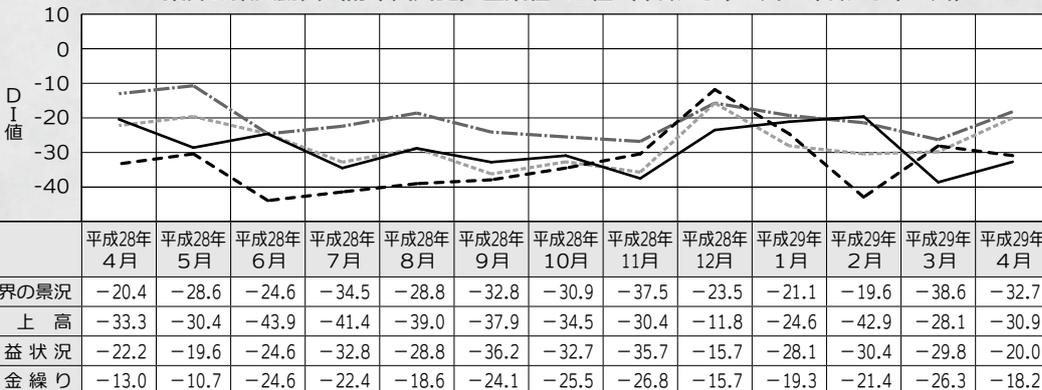
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- ☀ 快晴 30以上
- ☀ はれ 10~30未満
- ☁ うすぐもり -10~10未満
- ☁ くもり -30~-10未満
- ☁ 雨 -50~-30未満
- ☁ 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種 DI 値（平成28年4月~平成29年4月）



食料品製造業

<漬物>

収益状況が毎年厳しくなっている。震災前の売上には全く戻らない状況。

<味噌醤油>

醤油用原料の外国産小麦が収穫不良により、4月の購入価格から大幅な値上げとなった。味噌用の規格外米不足は相変わらず続いており、MA米（外国産米）へ移行する状況。

<菓子>

花見、端午の節句などの繁忙期が終わり、これから閑散期に入る。

<酒造>

吟醸、純米吟醸については、前年比100%を越えてきたが、全体的に良くない状況が続いている。日本酒の飲酒人口が減っている統計情報が発表され、若者への日本酒の飲み方、付き合い方のセミナーの実施が検討されている。

<食品団地>

今月は県内外のイベント等でやや消費も上向いたが大きな変化はみられない。消費者ニーズが多様化する中で足元を見ながら持続的な商品づくりが重要となってくる。今後も経済環境の変化や原油価格の高騰等、収益に影響が出てくる見通しで難しい状況が続いている。

繊維工業

<ニット>

春夏物については、最終的には昨年と比べあまり大きな変化はなかったが、昨年の秋冬物の売上げが良くなかったので今後の受注動向が心配である。

<縫製品>

3月、4月は縫製業界では繁忙期にあたるが、過去記憶にないほどの最悪の状況で、業界各社資金繰りに苦慮している状況である。

木材・木製品製造業

<製材業>

地元需要は造作材等の小口の引き合いが多少増加する程度で大きな変化はない。3月まで続いた丸太価格の値下がりとは終わりとなった。

<外材輸入>

大手プレカット工場の稼働率は好調であるが、全般的に低調な製品の荷動きとなっている。5月連休明けの回復が期待されている。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

原発による風評被害など紙器業者を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にある。

印刷

<印刷業>

新年度に入り、年度末からの仕掛かりも少なく、稼

働状況も芳しくない。紙代に値上げの動きがあり、また運送業界の一部からも値上げの要請がきている。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

1. 当月売上数量 前月比 約10%減
2. " 昨年同月比 約20%減
3. 本年度売上数量 昨年対比 約20%減
4. 原因・現状

新年度に入っても、公共事業等からの注文が少なかった。

<生コン>

平成29年4月の組合員生コン出荷数量は、141,628m³と対前年同月比-9.9%。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比-11.5%、官公需が-10.3%であった。

○民需の動向

対前年同月比 -11.5%

対前年同月比増加地区

県北地区：+12.5% 福島市内病院新築工事、福島テレビ新社屋整備工事等

いわき地区：+30.0% スパリゾートハワイアンズ新施設工事、ショッピングモール新設工事等

対前年同月比減少地区

県中地区：-7.5% 市内病院治療センター増築工事等

白河地区：-47.5% 工場倉庫増築工事等

相双地区：-25.8% 第一原発固体廃棄物貯蔵庫、ロックウール生産工場建設工事等

会津地区：-22.0% マンション、工場建設工事等

○官公需の動向

対前年同月比 -10.3%

対前年同月比増加地区

県北地区：+38.4% 福島市体育館新築工事、東北中央自動車道桑折高架橋工事等

県中地区：+50.4% 郡山市西田学園、須賀川市民交流センター建設工事等

会津地区：+57.9% 河東学園建設工事、喜多方市新葬祭場工事等

対前年同月比減少地区

白河地区：-7.4% 古殿町体育館建設工事等

いわき地区：-23.0% 港湾災害復旧、磐城共立病院新築工事等

相双地区：-33.8% 海岸線復旧、河川復旧工事等

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、新年度に入って新予算に基づき引合い物件が増加し、売上高も前月比71%増と大きく増加したが、前年同月比では21%減と不安な新年度スタートとなった。しかし、新年度に入ってから予算に基づく引合い物件が増加傾向にあるため先行きに期待したい。

<鉄工工業>

(県中) 県内の建物が少ない。

(相双) 復興による全面的な支援により復興整備が進められているが、業界を取り巻く環境は大変厳しい状況にある。当組合も地場の仕事に携わる関係で仕事量が不安定なため、組合員数も減少の傾向にある。

<漆器>

卒業祝、入学祝、餞別及びその返礼といった贈答はほとんどなくなってしまった。個人消費は、完全に萎縮している。

卸 売 業

<再生資源>

4月はじめのトランプ大統領の発言で、大きく円高に振れたため、古紙、鉄スクラップとも輸出価格が暴落し国内向け価格も下落、大きく収入を減らした。急激な価格変動のため、仕入れ価格にすぐには反映できず、収益も下がった。

<米麦事業>

米穀の販売単価は昨年より上がり、売上高は増えた。

小 売 業

<共同店舗>

(〇ショッピングセンター)

売上高・来店客ともに、前月比・前年比全体で不変。次月は、農作業繁忙期で売上は期待できないことから、母の日で勝負したいところである。

<石油>

4月上旬に元売各社の仕切価格が下方修正されたが、中旬に入り再び値上がりとなった。県内の小売価格は依然として県南地方を中心に仕入以下と思われる廉売が続き、厳しい経営状況となっている。

<青果>

前月から引き続き、野菜単価が高騰し高値で推移したが、取引量が伸び悩み減少となった。前月同様、桜祭りなどのイベントもあったが、流通の変化や消費者の嗜好の変化の影響が現れる結果となった。来月は、連休もある事で、少しでも取引が増加することに期待したい。

<家電>

一部売上が上昇している。全体的にはやや好転しているが、今後気温上昇によってはエアコンなどの動きが良くなる。

商 店 街

<福島市>

4月は花見山への観光客を、いかに“街なか”へ誘導し、楽しんでいただくか、これに尽きる。今年は天候に恵まれ、さらに桜の開花が日程的にも土日にあたり、盛況であったと聞いている。アーケードの撤去工事に伴い、通りを通行する方が減少する恐れもあったが、杞憂であったよう。以前よりもJRの利用者、また自家用車で来街される方も、街なかに駐車し、観光に回る方が増えたような印象を受けた。

<南相馬市>

春祭りの歩行者天国が4月29日に行われ、多くの来街者で賑わいを見せた。特に子供の姿が多く見られ

たことは安心材料であった。

<会津若松市>

今年の4月は、月を通して気温が例年より低い日が多くアパレル等、春物商戦にはマイナス要因であった。後半に大型連休前の買い物をするお客様の流れがみられたが、前半を上回ることはできなかったと思われる。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

昨年のアフターDCキャンペーン等の反動もあり、集客的に前年を下回る結果となっている。ゴールデンウィーク開始の4月は天候も良かったが、お客様の宿泊予約等は5月の連休に集中したようである。福島市内は4月の土日は各地域でイベントが繰り広げられており、どうしてもお客様の動きが分散化してしまい、思ったほどのイベント開催効果が得られないでいる。イベント内容においても、他と差別化が図られる内容に作り変えていかなければならない。

<美容業>

業界にとって悩ましい月である。その理由は、消費者の暮らし方(子供達の帰省、連休で友の帰省、行楽日和、この間は街の夜が賑やか等で)に大きく影響しやすい美容界にとって、消費者の動向で差が生まれるからである。売上の好調を続けるサロンの特徴としては、お客様がサロンに対する「おどろき感=感動する」をうまく捉えている。

<理容業>

3月に引き続き、4月も天候に恵まれどの方部でもまずまずの状況だった。土日から始まり土日で終わる月で、どうしてもお客様は土日に集中するためそのせいもあったのだろう。その分、5月の売上が落ちるのが心配である。早めに夏メニューの提案をし季節感を先取りし頑張るよう進めていく。

<一般廃棄物収集運搬>

組合として新たな業務が追加となり業務がスタート、通常業務については前期同様の実績でほぼ同額の売り上げを見込んでいる。震災関連事業については、現在のところ安定していると思われる。一方、相馬市内における震災関連事業はほぼ終了となっている(環境整備関連のみ・建設関連はまだ続くよう)。産業廃棄物に関しては依然として排出量は震災前の水準には届かず、しばらくは増加することはないと思われる。雇用については組合員各社で人材の確保について苦慮している。新たな雇用者の定着率は以前と比べて低いよう感じる。

建 設 業

<建設業>

(県南地区)

土木・建築工事共に受注が減少したままで、今後の見通しも良くない。地元の中規模の建設業の受注機会が十分に担保されないため、経営悪化が心配される。

<管工事>

前月比で給水・排水設備申請は減少した。前年同月対比では、給水設備申請が減少し、排水設備申請が増

加となった。

<専門工事>

新年度に入ったものの、復興の二文字を加えた景気動向も決して好転する気配がない。業務については大きく変動している様相ではないが、着実に下り坂に向かっていく気配がある。

運 輸 業

<トラック団地>

(県北地区)

平成29年に入り事業所ごとにバラツキはあるものの、総体的な売上高は僅かに減少している。

<ハイヤータクシー>

低調傾向が続いている。今月は思っていたよりも動きが悪かった。来月は例年動かない月なのでさらに厳しさが増しそうである。